



# 支援員だより

発行者：山口県・公益財団法人山口県ひとづくり財団

## もくじ

- P 1、2 支援員さんの声
- P 2 今年度の支援員研修会案内
- P 3 特定外来生物ヒアリについて  
(自然保護課)
- P 4 活動団体報告(ツルニンジンの保  
全活動)

## 支援員さんの声

支援員研修会で感じたことや日々の活動の中での思いなどをお寄せいただきました。

### 「狩猟と自然環境の変化」

前田 和章（下関市在住）

私が支援員になったのは鳥獣保護員になって間もない頃ですから、約7・8年前になります。狩猟を始めたのは37年前です。これまで狩猟を通して自然環境を見守ってきましたが、近年地球温暖化が叫ばれ、生息地の状況が悪化しています。これにより、たくさん渡ってきていた冬鳥の数が減少しています。また、農家の担い手も高齢化し、耕作放棄地も多く見られます。こういった原因によって、今まで里山では見られなかったイノシシ、シカが増加し、農林作物の被害が甚大です。更にここ2・3年、下関地区でもツキノワグマの目撃情報があり、クマの生息環境の変化「山奥の荒廃」も要因の一つかと思います。



鳥獣保護と狩猟は相反する行為ではなく、むしろどちらも自然環境を保護するために必要なのです。様々な問題はありますが、猟師として、人間と自然が上手に共存することを願うばかりです。

### 「支援員の皆さんこんにちは」

吉森 信雄（周南市在住）

山口県の希少な野生動植物の支援活動を始めて、早10年目を迎えます。私にとって、希少野生動植物種保護支援員研修会や体験学習会等への参加など、色々な行事を通じて、感動とより豊かな知識の場が持てたり、多方面での支援員どうしの輪が広がっていったりしていることが、大いなる楽しみになっています。



私たちの周辺では、川や水辺に普通に生息していた、ゲンゴロウやミズカマキリ、タイコウチ、メダカなどがすっかり見られなくなり、また、捕獲する場所が少なくなっています。野生生物がこんな状態になったのは、様々な原因があると思います。これからも、地域の皆さんと共に、環境に対する勉強会や、環境学習会等、地域を幅広くサポートし、情報学習交流の拠点として活動を行い、支援員の皆さんと共に、自然環境の保全と、希少動植物の保護に努めていきたいと思えます。



### 「こんなところにも」

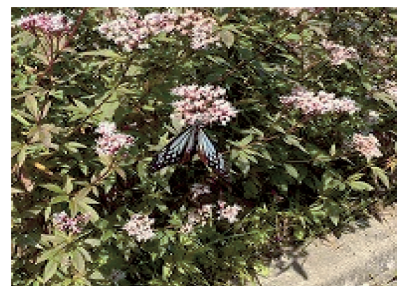
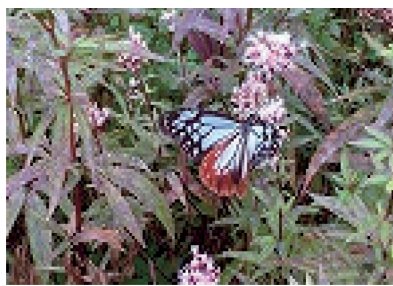
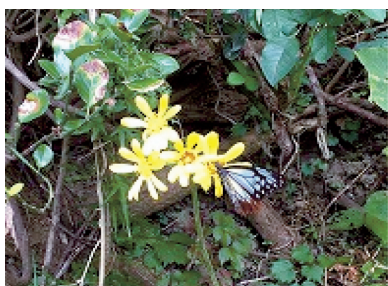
松本 明寿（防府市在住）

いつかは歩いてみたいと思っていた光市の峨眉山は、仕事では象鼻岬海岸林の松くい虫防除でそばを通ることは何度もあったのですが登るチャンスがなく登ってみたいという気持ちはどんどん募るばかりでした。そんなモヤモヤの中、昨年11月13日峨眉山観察会に参加するチャンスが巡って来て、待ってましたとばかり参

加ささせていただき、カンザブロウノキ等これまで知らなかった沢山の植物を教えてもらい、充実した1日を送ることが出来ました。

竜王山の観察会には2回参加させてもらっています。「これが渡りをする蝶アサギマダラ」だと初めて見た時は、綺麗で、人を恐れない蝶であることに感動しました。アサギマダラの飛来数については、希少種だけにこんなものだろうと自分で納得していましたが、昨年、私の故郷である防府市の沖合、瀬戸内海に浮かぶ野島で、11月3日、11月6日に海岸道路の一角に植えてあるフジバカマに群れる10匹以上のアサギマダラに出会い新たな感動にしばし酔いしれてしまいました。島の人から「アサギマダラはいっぱいいるよ。春も来るよ。」と聞いてはいたのですが。(私も昨年5月大分県玖珠の万年山でアサギマダラを見かけました。)こんなところに、こんなに多くのアサギマダラがと俄かには信じられない光景でした。そばを通りかかる島の女性たちは「まだおるんか。はよう、いなんにゃあー置いて行かれるよ」とアサギマダラが渡りの蝶であることを知っていて優しく声をかけていました。アサギマダラは風の強い日は海の傍では見かけられなかったのですが、山中のツワブキの花の蜜を吸っていました。興味のある方は一度マーキングの準備をして訪ねてみてはいかがでしょうか。島の小中学校では生徒さん達が、マーキングをして放蝶しているとのことでした。

旅する蝶アサギマダラを知ったのは希少動植物種保護支援員の仲間にしてもらったからであり、支援員の皆様には感謝致しております。今後も観察会には極力出席するようにして、1つでも2つでも支援員の皆様と地域に情報を共有できるよう精進したいと思っています。



## 今年度の支援員研修会 (詳細は開催案内を参照)

### 第1回 秋吉台草原の復元作業体験

日時：平成29年9月17日(日) 9:00~13:30

場所：秋吉台長者ヶ森、秋吉台エコミュージアム

内容：秋吉台草原ふれあいプロジェクト・草原の復元作業を体験することにより、支援員としての資質向上を図る。



### 第2回 八代の鶴ねぐら整備作業体験



日時：平成29年10月7日(土) 8:30~14:00

場所：周南市大字八代、鶴いこいの里交流センター

内容：八代の鶴ねぐら(場所非公開)の整備作業を体験することにより、支援員としての資質向上を図る。

## ◆特定外来生物ヒアリについて

平成 29 年 5 月 26 日に兵庫県尼崎市において、中国・広東省広州市の南沙港から輸送された貨物コンテナ内部でヒアリが初めて確認されました。その後の調査では、兵庫県、愛知県、大阪府、東京都、神奈川県、福岡県、大分県の港湾施設などで相次いで確認されています。

ヒアリは、「火蟻」と表されるように、毒針に刺されると火傷のような激しい痛みが生じるなど人体への影響が大きいことから、環境省や関係機関等では、国内への定着を阻止するため、ヒアリ確認地点や中国との定期航路のある港などで防除や生息確認調査を行っているところです。

平成 29 年 7 月 25 日現在まで、ヒアリは港や貨物コンテナ以外では確認されていないため、皆様のご自宅周辺等で見つかる可能性は極めて低いと考えていますが、国内への侵入状況など不明な部分も多いことから、今回はその生態や見分け方などについてご紹介させていただきます。

### ◇ヒアリについて

【分布】南米原産。貨物等に紛れて持ち込まれ、アメリカ、オーストラリア、マレーシア、中国、台湾など環太平洋諸国に分布を拡大している。

【生態】亜熱帯～暖温帯に生息し、草地など比較的開けた環境を好む。土で直径 25～60 cm、高さ 15～50 cm のドーム状のアリ塚を作る。雑食性で、節足動物、小型脊椎動物、樹液、花蜜などを餌とする。



### ◇ヒアリの簡易的な見分け方（暫定版）

ヒアリの疑いの有無については、次の見分け方でおおよそ判断できます。ただし、在来種のオオズアリ属などヒアリによく似た種もいますので正確な同定は専門機関に依頼することになります。

#### ①まず肉眼で観察

ヒアリの特徴	ヒアリでないもの
<ul style="list-style-type: none"> <li>赤っぽくツツヤしている。腹部の色は暗め</li> <li>働きアリの大きさが 2.5～6.0mm と連続的な変異がある</li> <li>行列を作り餌に集まる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒いアリ（ただし、海外には黒いヒアリ類もいます。）</li> <li>2.5mm 以下の小さいアリ</li> <li>赤っぽいアリでも大きさに連続的な変異がない</li> </ul>



#### ②顕微鏡で観察



頭循前縁中央に小突起(口もとにでっぱり)  
※同じく特定外来生物のアカカミアリは頭循前縁中央に小突起はないが、他の特徴は同じです。

・触角は付け根から 10 節  
・先端の 2 つが大きい(棍棒状)

・腹柄が 2 節(背中に 2 つのコブ)



### ◇万が一、刺された場合の対処

ヒアリの毒への反応は人によって大きく異なります。刺された時は数分～数十分は安静にし、急激に容体に変化する場合には速やかに最寄りの病院を受診してください。

なお、駆除が必要な場合には、熱湯や市販の殺虫剤などで駆除することができます。

●ヒアリに関する詳しい情報は、環境省ホームページ「ヒアリに関する諸情報について」をご覧ください。

【URL】 <http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/fireant.html>

軽度	刺された部位の激しい痛み 10 時間ほどで膿がでる
中度	部分的、又は全身にかゆみを伴う蕁麻疹がでる
重度	呼吸困難・血圧低下・意識障害などのアレルギー反応

## 「ツルニンジンの保全活動」



本山会 代表 嶋田 紀和

ツルニンジンという山野草をご存知でしょうか？キキョウ科の花で広鐘形、花冠は3cm前後。花筒の先は5列しており、内部は茶褐色の斑点があります。山の縁や登山道わきなどで見ることができます。花期は9月中旬から。別名「ジイソブ」。

竜王山では以前からツルニンジンの大きな群生地が2ヶ所確認されていました。花が咲くのは9月中旬ころです。この頃は夏草の背丈が高く、更にクズが巻き付いているので中に入って花を見るのが出来ませんでした。そこで私たちは4年前の2014年から保全活動を開始しました。草を刈り、クズをケイピンで駆除し、支柱を施しています。

その結果、年ごとに個体数の著しい増加が見られるようになりました。2014年の支柱は200本、以後400本、500本、600本となりました。昨年からは支柱をメダケから各方面の支援を得てイボ竹に切り替えました。たくさんのメダケの切り出す作業負荷が大きくなって来たからです。



メダケの支柱



イボ竹支柱

山を歩いていると縁などで時折ツルニンジンを見ることが出来ます。せいぜい数個体くらいです。ところが600本もの支柱を施すほどの群生地がある竜王山は、稀有な存在と言えるでしょう。浴を挟んでもう一箇所群生地がありますが、未だここは手を付けていません。

この時期（7月）は夏草で藪となり入れない状態です。

このように竜王山（136m）は、山陽小野田市の南端に位置し海に面しています。このような環境下で、山野草の宝庫です。群生する植物が多いのが特徴です。7月はコオニユリ、ウバユリ、9月はツルニンジン、10月はサワヒヨドリ、モリアザミなどへと繋がっていきます。今年はヒヨドリバナのゾーニングを行います。アサギマダラの飛来が楽しみです。

発行元：(公財) 山口県ひとつづくり財団 県民学習部 環境学習推進センター

〒754-0893 山口市秋穂二島 1062 TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720

<http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/>

